

兵庫県ワシントン州事務所

インターンシップ報告書

看護学部 2 回生

山本 愛子

実施期間：平成 28 年 2 月 29 日（月）～3 月 31 日（木）

● インターンシップの内容

今回の海外研修では主にシアトルの兵庫ワシントン州事務所へのインターンシップと Nikkei Northwest でのボランティアを行いました。兵庫県事務所では 3 月 25 日～27 日に行われるアニメイベント、サクラコンにおいて兵庫県を紹介するパネルの作成に取り組みました。

事務所へは毎週金曜日に訪問し、他のインターンシップ生 2 名と共同でパネルを作成しました。当日は来場者の方々に兵庫の良さを英語でアピールし、観光パンフレットをお渡ししたりしました。

Nikkei Northwest では日系マナーという老人ホームとデイサービスの機能を持つ施設で週 3 回ボランティアを行い、シアトル敬老というリハビリ施設付きの療養型ケアホームで週 2 回ボランティアを行いました。どちらも私にとっては貴重な経験になりました。



● インターンシップで得たこと

まずシアトルの兵庫県事務所での活動で得たことですが、サクラコンで様々な年代の方とお話しました。サクラコンは 10 代から 60 代、70 代まで、アニメという日本の文化を大好きな人々が集まるお祭りでした。その中でアニメとは直接関係はないけれども、兵庫に興味を持ってくださった方々がたくさんいらっしゃったのは嬉しかったです。この夏日本に行くという方、この前行った方、行きたいけど今のところ行く予定はない方など様々で、日本を良いところだと言ってくれる方々とお話すると、日本人であることに誇りを持たれたように思います。一方で、日本、兵庫のことをまだまだ知らないことがあると感じました。もっと兵庫のことを知っていれば、と思うことがあったので興味を持っていろんな場所へでかけてみようと思います。

次に介護施設でのボランティアで私が得たことは4つあります。1つは居住者さんのリスクを考えながら行動するということです。これは看護で必要な視点でした。私が中学生のとき、祖父は私たち家族と外食する際に転倒し、寝たきりになってしまいました。そのときもっと危機管理ができていればという無念があったので、ボランティアでは居住者さんの行動に常に気を払い、認知症もある居住者さんに対しては特にその方の行動パターンとリスクを考えながら活動することを学んだように思います。1か月の間介護施設でボランティアするという経験は初めてでしたが、個々の居住者さんの特徴や性格が徐々にわかるようになってきて、やりがいを感じました。

2つ目は暮らしを豊かにすることで健やかになれるということです。ここのボランティアさんや居住者さんは90代になっても元気の方がたくさんいらっしゃいました。ある日本人スタッフの方がおっしゃっていたことですが、人は老いると幼少期に慣れ親しんだ生活習慣を好む傾向があるということです。その方の祖母は20代のときに結婚のためにアメリカにいられた方だそうですが、老いてからは日本で食べていたものしか食べられなくなったり、日本が恋しくなったりしていたということです。長寿の秘訣は祖国での文化、風習に則った生活を送ることであるということを経験者たちから学んだように思います。この施設の存在意義はとても大きいと思いました。

3つ目はボランティアの価値についてです。ここではボランティアさんは居住者さんの生活をより充実させたり楽しい時間を過ごしてもらえるようにアクティビティを手伝ったり話し相手になったりすることが求められています。ボランティアさんとスタッフを交えた会議もあり、積極的な議論を交わして施設の改善に貢献しています。日本ではボランティアはいてもいなくても成り立つ存在で、部外者意識があるような気がしていました。しかしここでのボランティアはスタッフの1人として尊重されており、居心地がよかったですしやりがいをもって活動できました。日本の多くの介護施設ではスタッフ不足が深刻な問題となっていますが、ボランティアの価値を高めることでアクティビティスタッフとしての役割を担うボランティアが増えることが期待できると考えました。

4つ目は、アメリカの日系移民の歴史と今後についてです。私はシアトルに行くまでアメリカの日系移民の方々について詳しく知りませんでした。ドイツのナチスによるユダヤ人差別、強制収容所の歴史は学ぶのにも関わらず、日本人の歴史を知らなかったことを恥ずかしく思います。その日系1世、2世、3世、4世と続いている歴史を学んでから、日本で同じように移民としてわたってきた外国人はどのような生活をしているのか関心を持つようになりました。「移民」「在日外国人」というワードに親しみを持つようになったので、帰国してからの活動につなげたいです。

● これからの自分にどう活かされていくか

特にこれから活かしていきたいことは2点あります。1つは文化的背景を知ること、個々の居住者さんに合わせたケアができるということです。シアトル敬老での多様な文化

を持つ人々がスタッフとして働き、居住者さんも様々な人種の方がいらっしゃる施設においてそのことを実感しました。文化というものは枠組みにすぎません。同じ日本人であっても個々の居住者さんによって求めるケアは異なります。ですが、多国籍の方がいらっしゃる世界の中では、文化的背景を知っていれば個人を理解する支えになるのが、異文化理解であると感じました。将来海外で看護師として働きたいと考えている私にとっては、この異文化理解の重要性を、身をもって感じる機会となりました。

また上述のように、移民に興味をもったことから、日本で何か活動できればと考えています。たとえば、神戸定住外国人支援センターではベトナム人や韓国人向けの日本語講座や高齢者施設があるそうです。そこでのボランティアを経験してみて、今回訪れた Nikkei Northwest との違いや多民族国家ではない日本での移民の方々の苦勞や生きにくさを知り、改善できるような活動ができればと考えています。

● 後輩たちに引き継いでいきたいこと、メッセージ

インターンシップでは行った先で自分が何をしたいのかが大切になります。主体性が問われるところなので、どんな活動がしたいのかを考え、実現が難しいかもしれないことでも、だれかに話してみるという姿勢は大事であると思います。口に出すことで話がめぐりめぐって新たなチャンスにつながる可能性があります。

また、インターンシップでは大学や学生団体の海外渡航プログラムとは異なり、基本的には1人で行動することが多くなるため自分のことを自分で守らなくてはならないし、そういう意味では自己管理が必要です。一方で、1人で知らない土地に来て生活をするということは多くの場面で人に頼ることが増えるため、いろいろな人と繋がれるチャンスが増えるということでもあります。アメリカの多くの人は見知らぬ人でも前から仲が良かったみたいに親しみをもって話してくれる人も多いので、彼らとのかかわりにより、新鮮な毎日を過ごすことができました。また、シアトルは日本の文化がかなり入っているのでアメリカの中では特に住みやすい土地です。



不安に思うことは多々あるとは思いますが、海外でのインターンシップを考えている方はぜひ、一歩踏み出す機会にしてもらえればと思います。